

12 Ways for Autonomous English Learning through Movies



洋画を活用した 自律的英語学習法12

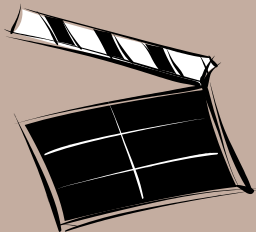
国立大学法人小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻(専門職大学院)教授

小林敏彦

KOBAYASHI Toshihiko

Professor

Graduate School of Commerce Otaru University of Commerce
(OBS: Otaru Business School)



toshi84123@res.otaru-uc.ac.jp
<http://blog.auone.jp/keg84123/>
<http://www.ne.jp/asahi/toshi/koba/index.htm>





1. 洋画を活用した英語学習の利点



Authentic

- Learn authentic phonological, lexico-grammatical and discourse features peculiar to casual conversation.

Contextual

- Learn materials in context with aural and visual cues and develop empathy with people in the stories.

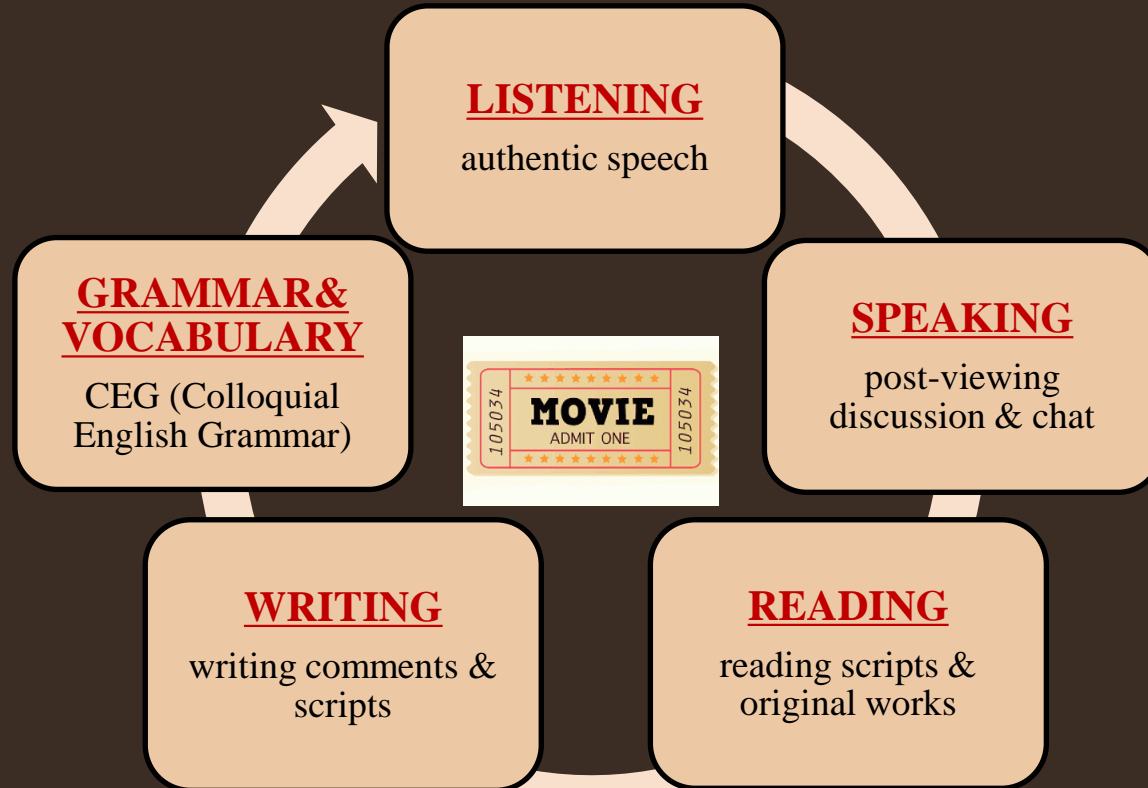
Entertaining

- Never become bored with learning English thanks to the unlimited repertoire of works available.

洋画(英語の映画)を活用した英語学習の利点は、Authentic / Contextual / Entertainingの3つの形容詞に集約できる。Authenticとは、学習者が口語特有の語彙や構文、談話的特徴を学べるという点である。すなわち、口語英文法(CEG: Colloquial English grammar)が学べる。学習者のために、語彙や文法が調整された英語ではなく、英語母語話者向けの、妥協のない本物の英語に接することができる。学校では教えてくれない口語独自の特徴を帯びたインプットを得ることができる。Contextualとは、学習者が音声と映像で、場面の状況(context of situations)が把握できるために、特定の表現の正しい使い方が学べるという点である。音声と映像を伴ったインプットを受けることで正確に文脈が把握できる。特定の決まり文句など、具体的な使用場面がわかるので正確な使い方が習得できる。Entertainingとは、洋画作品は数え切れないほどあるので、決して飽きることなく、自分の好きな作品を学習者自身が選んで永続的に楽しみながら英語力を向上させることができる点である。この世の事象のほとんどが映画で描かれている事実を忘れてはならない。



2. 洋画で上達できる4技能2領域



洋画(英語の映画)を活用した英語学習を継続することで、持続的に英語の4技能であるリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングおよび語彙と文法に2領域を上達させることができる。リスニングに関しては、妥協なきネイティブの英語を様々な場面の文脈(context of situations)の中で聞くことができる。一般の教材にある、いわゆる母語話者の「きれいな英語」だけでなく、非母語話者も含めた「いまそこにある英語」を聞くことができる。英語を使用したコミュニケーションの現場では、米英の教養ある人の発音しか聞き取れないのでは、将来不都合が生じる。特に、ビジネスの世界ではアジア諸国の英語が聞き取れることが大切である。洋画には、さまざま言語的背景の登場人物が描かれており、多様な英語の発音や語彙構文談話の形態に触れる絶好の機会を提供してくれる。スピーキングに関しては、洋画を鑑賞した後に一緒に観た友人らと討論することができる。対面でなくてもチャットやスカイプ等で話し合うことも可能である。リーディングに関しては、鑑賞前後にスクリプトに目を通し、読解力を高めることができる。また、原作の小説などを読むこともできる。ライティングに関しては、鑑賞後に感想を英文で書いたり批評したり、また、その映画の続編の脚本や新たな作品を自分なりに書くこともできる。文法・語彙に関しては、口語特有の語彙、構文、談話の特徴である口語英文法(CEG)を学ぶことができる。



3. 洋画英語学習グランドデザイン



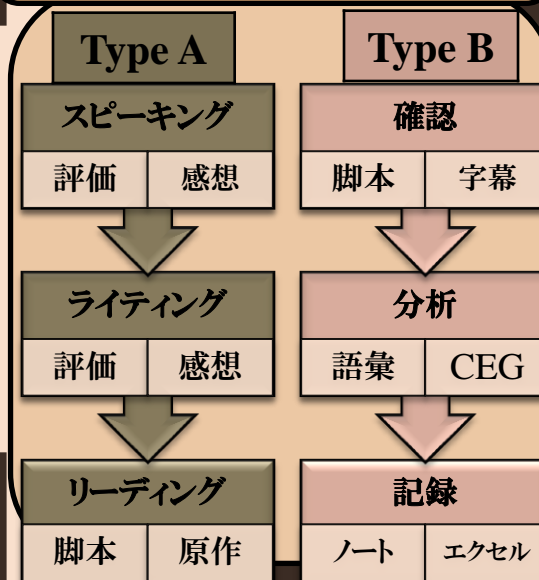
Pre-Viewing 準備

1	映画館チケット入手 (ナイトショー、割引日)
2	DVD入手 / You-tube検索 (購入、レンタル、図書館等)
3	洋画作品の基本情報入手 (予告編、IMDb等)
4	脚本入手 (市販、ネット) 閲覧
5	原作入手 (購入、図書館、ネット閲覧)

Viewing 鑑賞

Type A Focus on Meaning
内容に集中する 作品を評価する 異文化を学ぶ
Type B Focus on Form
全文を書き取る フレーズを書き取る 特定項目を書き取る

Post-Viewing 事後活動



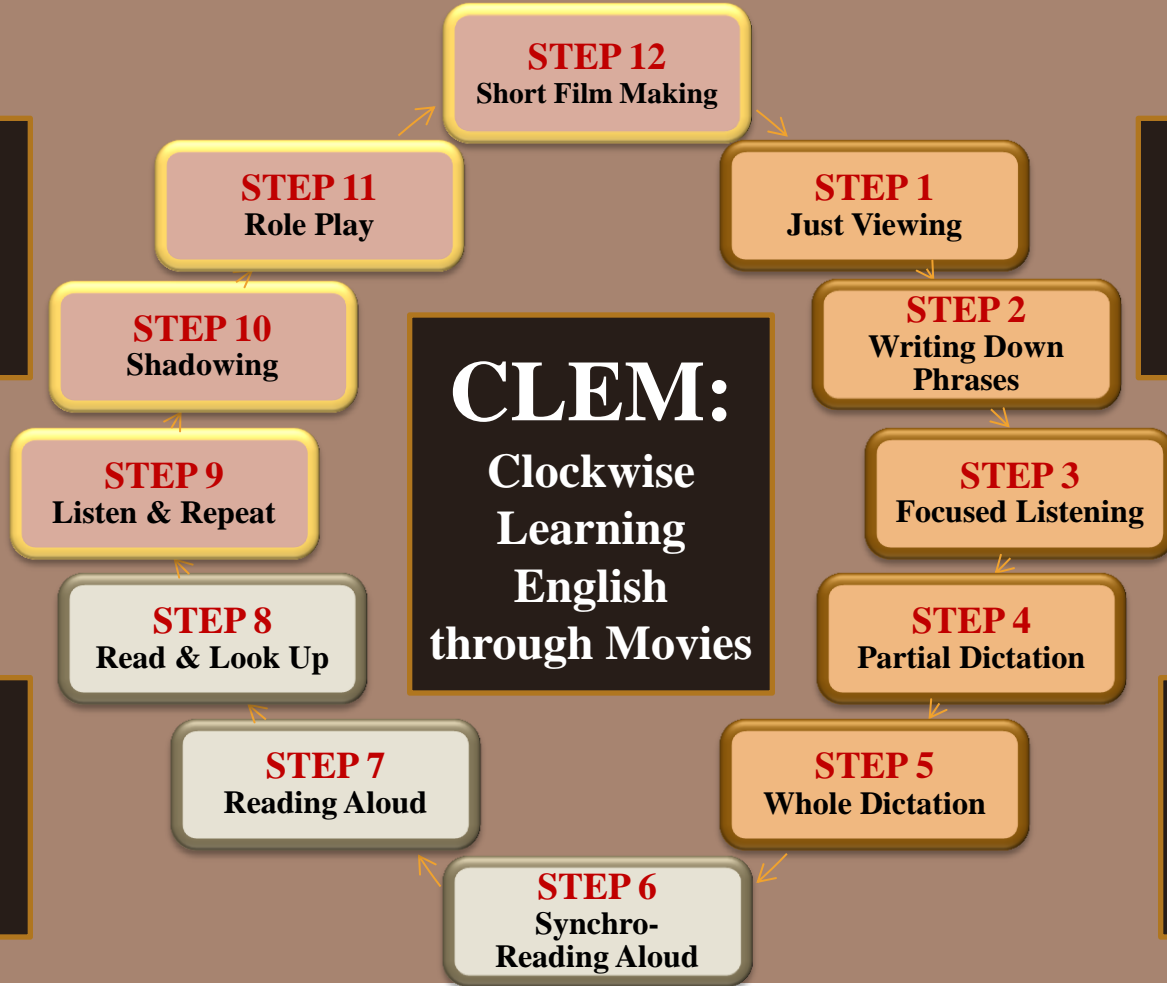
洋画(英語の映画)を活用した英語学習は、上の図表に集約される。準備 (Pre-Viewing)、鑑賞 (Viewing)、事後作業 (Post-Viewing) の3つの段階に大別できる。それぞれの具体的な内容は後述するが、この流れを学習者は常に意識していただきたい。このグランドデザインは、洋画一作品を活用した学習のプロセスであるので、複数の作品を同時期に鑑賞する場合には、チェック表等を作り、混乱しないようにしたい。まず、準備の段階では、作品を映画館で観るのか、DVDを購入またはレンタルして見るか、You-tube等のネットにアップされている画像を見るかを決める。鑑賞の段階では、台詞の意味に集中するか、台詞の形式に集中するかでタイプAとタイプBの活動があり、後で詳細に説明する。事後作業の段階では、鑑賞直後の記憶が新鮮なうちに、鑑賞した作品について、一緒に観た友人と批評し合ったり、コメントを英文で書いて、個人掲示板等に掲載することでグループ学習をすることができる。また、余裕があれば、脚本を読んだり、原作を読むとよい。書き取った表現を一緒に観た友人と突き合わせたり、脚本やDVDの字幕で確認する作業を行う。さらに、それぞれのフレーズがどのような使い方をするのか、またどの口語英文法の特徴を帯びているのかを分析すると学習効果が上がる。さらに、メモをしっかりとノートに整理したり、エクセルに入力し蓄積し、並べ替えをして私家版英語フレーズ集を作ることも可能である。



4. CLEM: Clockwise Learning English through Movies



CLEM:
Clockwise
Learning
English
through Movies



洋画(英語の映画)を活用した英語学習はさまざまあるが、ここではただ「聞き流す」だけから「短編映画制作」まで、12の方法を紹介する。STEP1からSTEP12まで順に学習を進めて行くことができる。この配置は、主に簡単なものから難しいものまで難易度、字幕の提示方法、関与する感覚器官(耳、口、目、手)に基づいて分類したものである。STEP1からSTEP5は、字幕なしまたは日本語字幕を提示して行う活動である。初級者の場合は、日本語字幕を提示しないと途中で意欲を喪失しかねない。この段階では、STEP1以外は、主に台詞を聞いて書き取ることを主眼としている。STEP6からSTEP8は、英語字幕を提示して、音読する段階である。STEP9からSTEP12は、字幕は消して、聞いて繰り返す段階である。最終的には、脚本執筆から演技、撮影、編集、上映、鑑賞、批評まですべて手掛けた、短編映画作品を制作することで多技能を関与させて、「統合的に上達させることが可能になる。



CLEM STEP 1: Just Watching (Focus on Meaning)



DATE: _____, _____, _____. Title: _____ (_____) directed by _____

1	As a whole, this movie is excellent.	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ← strongly disagree ▲ strongly agree →
2	This movie is fun, lively and exciting.	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ← strongly disagree ▲ strongly agree →
3	This movie is well organized and edited.	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ← strongly disagree ▲ strongly agree →
4	Actors and actresses in this movie act very well.	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ← strongly disagree ▲ strongly agree →
5	This movie is informative.	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ← strongly disagree ▲ strongly agree →
6	Language used in this movie is appropriate.	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ← strongly disagree ▲ strongly agree →
7	It is difficult to understand English in this movie.	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ← strongly disagree ▲ strongly agree →
8	I would like to see the actors and actresses in person.	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ← strongly disagree ▲ strongly agree →
9	I can make this movie better if I direct it.	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ← strongly disagree ▲ strongly agree →
10	I would like to watch this movie again.	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ← strongly disagree ▲ strongly agree →

STEP 1: Just Watchingは、洋画作品を最初から最後までひたすら見続ける活動である。後述の活動と異なり、鑑賞中にフレーズを聞き取るなどの言語的側面に意識の焦点を当ててではなく、内容に集中し、作品を評価し、異文化を学ぶ。すなわち、Focus on Formではなく、Focus on Meaningの活動である。ただし、あくまでも学習を目的に作品を見るので、気晴らしの洋画鑑賞にならないように、図表にある評価表を作品を見ながら、または終了後に書き込むようにしましょう。このシートを基に、協同学習をする際は、終了後にペアワークを行ったり、ディスカッションさせることができる。さらに、この評価表を基に、コメントを英文で書いて、ネットの掲示板等に載せて互いに読んでコメントを英語でレスする事後活動にまで発展させることができる。



CLEM STEP 2: Writing Down Phrases



Pre-Viewing 準備

鑑賞する洋画作品の内容やその時の時間の都合、体力や気力に応じて、数分の長さの場面を見るか、それとも全編を見るかを決めて、まずは字幕を非提示の状態にして準備する。映画館で新作を全編を鑑賞する場合は、できる限り脚本を購入するか、ネット等で事前に入手しておく。

Viewing 鑑賞

特定の場面また全編を字幕の提示法を変えて3回見て、聞き取れた語句をなるべく長い単位でノートに書き取る。

- 1回目：字幕非提示
- 2回目：日本語字のみ幕提示
- 3回目：英語幕のみ、または日英同時提示

協同学習の場合は、1回終わるごとに見せ合い比較する。

Post-Viewing 事後作業

- 1：英語字幕を提示（または日英同時提示）して、再生と停止を繰り返し、書き取った項目が正しいかどうかを確認する。
- 2：完全に書き取れなかったフレーズがあれば、なぜ書き取れなかったかを徹底的に分析する。
- 3：書き取った項目や気になる語句をノートに記録またはエクセルに入力し、整理して保存する。

STEP 2: Writing Down Phrasesは、聞き取れた語句を片っ端から書き取る気軽に行える活動である。DVDで個人または協同学習する際だけでなく、映画館で作品を鑑賞する時にも紙切れと筆記物を持参しよう。この活動は、学習者の聞き取り能力のレベルに応じて、調整が必要である。初級者は、とにかく聞き取れた語句は、単語でも何でもよいので制限なく、書き取るようにする。レベルが上がっていけば、なるべく長い、What's going on?のような定型表現などをターゲットとして、個々の単語の単位では書き取らない。さらに、レベルが上がれば、それぞれの単語は聞き取れるが、聞き慣れない長めのチャンクを書き取り、部分的に聞き取れない単語の部分は空欄にしておくといふ。この活動を地道に長く継続して行くと、単語ではなく、長い単位で音声認識できるようになり、もはや音声の物理的聞き取りは、知っているフレーズの間にある台詞に集中できるようになり、「字幕を見ないで洋画を理解できるレベル」に大きく近づくことになる。



CLEM STEP 3: Focused Listening



Pre-Viewing

準備

数分の長さの場面を決めて、字幕を非提示または日本語字幕を提示する準備する。

Viewing

鑑賞

同じ場面を3回見て、それぞれの回で特定の語句に集中して、その特徴を帯びた語彙項目だけをノートに書き取る。

1回目：数字のみ書き取る

2回目：動詞のみ書き取る

3回目：形容詞のみ書き取る

協同学習の場合は、1回終わるごとに見せ合い比較する。

Post-Viewing

事後作業

- 1：英文字幕を提示して、再生と停止を繰り返して、該当項目を確認する。
- 2：書き取れなかった項目のシーンは何度も再生してなぜ書き取れなかったかを分析する。
- 3：該当する項目を何度も音読する。

STEP 3: Focused Listeningは、聞き取れるものをすべて書き取るのではなく、聞き取れるものから特定の特徴を帯びた語句を書き取る活動である。これには、名詞、動詞、形容詞、副詞など品詞別に行うとよい。ただし、名詞の場合は、あまりにも漠然としているので、数字、地名、概念を表すもの、などのように細分化するとよい。中でも数字の聞き取りをするのが実用的である。実際の英語使用の場面で、数字の聞き取りが非常に重要な場面がビジネス、スポーツ、医学、科学などの世界で豊富にあるからである。特定の項目に集中することで、聞き取りが容易になり、繰り返しているうちに自信が付いてくるので特に初級者に適切な活動である。協同学習をすれば、互いに競い合い、楽しくなるだろう。経験上、上の図表のように、数字、動詞、形容詞の順で進めるのがスムーズに行くと思われる。時間とスタミナがあれば、4回、5回、6回と進めていくとよい。

CLEM STEP 4: Partial Dictation (1) Conventional Type

Pre-Viewing 準備

数秒から数分の長さの対話または独話を定めて、字幕を非提示または日本語字幕を提示する準備する。



Viewing 鑑賞

同じ場面を時間の許す限り何度も自分もペースで再生、停止を繰り返して聞いて一字一句すべて書き取る。何度聞いても書き取れない部分は、空欄にして最後に確認する。協同学習で、各自が再生・停止を自分のペースで可能な場合は、10分などの制限時間を設けて、競争することもできる。書き取り例は、次頁へ。

Post-Viewing 事後作業

- 1 : 英文字幕を提示して、確認する。
- 2 : 書き取れなかった項目のシーンは何度も再生してなぜ書き取れなかったかを分析する。
- 3 : 全体の語彙や文法、CEGを確認してから何度もシンクロ音読する。

STEP 4: Partial Dictation (部分ディクテーション) には、数秒から数十秒の長さの場面を何度も聞いて書き取る Conventional Dictation (通常ディクテーション) とリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、さらに文法と語彙の技能・知識を統合した洋画ディクトグロスの2つがある。通常のは、上の図表にあるように、事前に書き取りの対象とする場面を選ぶが、最初の頃は1セリフ数秒の長さの場面に留めて、徐々に長い単位を聞いて書き取るようにする。対話と独話をバランス良く聞くとよい。本番では、根気よく何度も何度も再生と停止を繰り返し、名詞の語尾の-sの有無、冠詞の有無に至るまで、すべてを書き取ることを目標とする。協同学習を行う場合は、10分程度の制限時間を設け、競争すると集中力が出る。ディクテーションの目的の際たるものは、何が聞き取れるかよりも何が聞き取れないかを発見することである。学習者間の個人差がはっきりとわかるものであり、診断的テストとして、今の実力を判断する手段としても有効である。また、聞き取れなかった語句は、音声的な問題なのか、自分のボキャブラリーが問題なのかよく分析し、しっかりと記録し、次回は絶対に聞き取る気持ちで学習に励むことが大切である。

CLEM STEP 4: Partial Dictation (1) 書き取り例

一回の聞き取り例

Harry : Your father _____
_____ died.
_____ time _____ to you.
Use _____.

Ron : What is it?

Harry: _____ cloak.

Ron : _____

Whoa!

Harry : My body _____..

Ron : I know _____

_____.

Harry : _____?

Ron : _____.

_____ to you.

Harry : _____ name. _____

_____.

Harry Potter and the Philosopher's Stone
(2001)

数回の聞き取り例

Harry : Your father _____ this in my
possession before he died.
It is time _____ to you.
Use it well.

Ron : What is it?

Harry: Some kind of _____.

Ron : Well, let's see, then, _____.
_____!

Harry : My body is gone.

Ron : I know what that is. That's an
_____.

Harry : _____?

Ron : _____ really rare.
_____ gave it to you.

Harry : There was no name. _____
said "use it well."

Harry Potter and the Philosopher's Stone
(2001)

数十回の聞き取り例

Harry : Your father _____ this in my
possession before he died.
It is time it returned to you.
Use it well.

Ron : What is it?

Harry: Some kind of _____.

Ron : Well, let's see, _____, put it on.
Whoa!

Harry : My body is gone.

Ron : I know what that is. That's an
invisibility _____.

Harry : I'm invisible?

Ron : They're really rare.
_____ wonder who gave it to you.

Harry : There was no name. It just
said "use it well."

Harry Potter and the Philosopher's Stone
(2001)

CLEM STEP 4: Partial Dictation (2) Dictogloss

四技能を統合した 洋画ディクトグロス

STEP 1

Preparation

準備

スクリプトを見て、一度音読、シンクロ音読、シャドーイングをする。

STEP 2

Dictation

書き取り

ハンストップで3回またはそれ以上続けて同じ場面を見て、書き取る。

STEP 3

Reconstruction

復元

書き取ったメモをグループで突き合わせて、話し合い、ボードに復元する。

STEP 4

Analysis / Correction

分析・修正

スクリプトを見て、赤ペンで修正・加筆、議論する。

<http://en.wikipedia.org/wiki/Dictogloss>

Dictoglossとは、通常のディクテーションと比較して、事後の作業を重視し、協同学習を基本として、自分で書き取ったメモを基に、グループで協力し合い、完全な復元を行う一連の活動である。概要については、上記のサイトを参照していただきたい。本来は、授業で教員が指示し進め、教員が音読したり、朗読した音声を聞かせて書き取らせる教授法であるが、これを洋画を活用した形で自律的英語学習で行うのが「洋画ディクトグロス」である。まずステップ1で、洋画の短い数十秒のスピーチを選び、それを印刷したスクリプトを見て、シンクロ音読またはシャドーイングを一度行う。ステップ2で、字幕なしまたは日本語字幕を提示して3回同じ場面を見て、それを学習者がそれぞれメモを取る。ステップ3で、そのメモをグループ内で突き合わせて協同で読まれた英文を復元し、一枚の紙に書く。レベルに応じてこのやりとりを母語または英語で行う。できればホワイトボードなどに書いて完成させていく。ステップ4では、それをスクリプトと比較して、相違点を確認し、添削したり、足りない部分を赤ペンで書き入れて、聞き取れなかったり、間違った原因などを分析し合い、コメントし合う。参加者のレベルがじゅうぶん高めれば、すべて英語だけで行うことで、洋画の1場面、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、語彙、文法の4技能と2領域すべてを統合した学習が可能にある。

CLEM STEP 5: Whole Dictation

Pre-Viewing 準備

1年間使用する洋画(120分程度)を厳選し、DVDおよびプレイヤーを用意する。



Viewing 鑑賞

1日20秒間だけ繰り返し聞いて、1時間は頑張って全文を書き取る。



Post-Viewing 事後作業

- 1: 英文字幕を提示して、確認する。
- 2: 書き取れなかった項目のシーンは何度も再生してなぜ書き取れなかったかを分析する。
- 3: 全体の語彙や文法、CEGを確認してから何度もシンクロ音読する。

STEP 5: Whole Dictation (全体ディクテーション) は、洋画1作品の台詞をすべて聞いて書き取るもっとも過酷な英語修行のひとつであり、その効果は絶大であるが、相当な意志がないと途中で挫折する。1年間見続けても飽きないお気に入りの作品を厳選して、毎日20秒程度の長さの場面だけを何度も聞いて、すべてを書き取る。もちろん、台詞のないシーンなど、均等に台詞が配分されているわけではないので、20秒はあくまでも目安である。作品の選定について、英語の聞きやすさを基準に選ぶならば、ディズニー作品がお勧めである。内容を重視する場合は、自分の興味にあったジャンルの作品を選ぶ。また、作品を通じてある特定の分野の知識や語彙を身に付けたい人は、もっとも適切な洋画を探し求めよう。例えば、米国の陪審制度を理解したい法学部の学生であれば、「12 Angry Men (12人の怒れる男)」を選ぶ。また、キューバ危機については、「Nine Days (ナインデイズ)」を見ると当時の緊張した外交のやりとりを感じられるだろう。特に、歴史上の大きな事件や戦争のほとんどは、映画で描かれている。難しい文献を読みあさる前に、洋画作品を1度見れば、概観が理解できて、学習も進むだろう。1年間少しずつ進めるモチベーションが維持できるかが試される学習法である。

CLEM STEP 6: **Synchro-Reading Aloud**

Pre-Viewing

事前準備

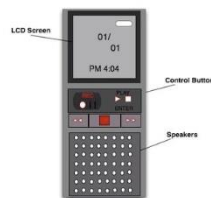
数秒から数分の長さの対話または独話を定めて、英語字幕を提示する準備する。



Viewing

鑑賞

英語字幕を見ながら、音読を繰り返して、レコーダー等に録音する。



Post-Viewing

事後作業

音声を消し再生して、収録した朗読を同時に流して、合っているかを確認する。



STEP 6: Synchro-Reading Aloud (シンクロ音読) は、特定の場面を英語字幕を提示して見ながら、台詞を聞きほぼ同時に繰り返す活動である。文字を見ながら声を出して読む点からは、音声と同時に読む特徴から、Synchro-Reading Aloud (シンクロ音読) と呼べるが、文字を見ながらシャドーイングをする特徴もあるので、Synchro-Shadowing (シンクロシャドーイング) と呼ぶことも可能である。この活動を行う機会として、初めて見るシーンまたは不明語句などを含んだままの場面を見て行う場合と、これまでのステップでの事後活動として、既に不明語句の意味を調べ、台詞の意味を明確に理解した段階で行う場合がある。数秒から数十秒の比較的短い場面であれば、時間とエネルギーが許す限り何度も繰り返し行うようにしたい。そして、徹底的に俳優の口調を真似て、できれば声質も真似る。対話文の場合には、協同学習として友人等と一緒に自分のパートをシンクロ音読することもできる。そして、完全に十分な音読ができたと判断した段階でレコーダー等に収録する。事後作業として、音声を消した状態で同じ場面を再生して、収録した朗読を同時に流して、俳優が台詞を話しているように感じられるか確認すると楽しい活動になる。

CLEM STEP 7: Reading Aloud



Just according
to keikaku.



音読の 脳神経 メカニズム

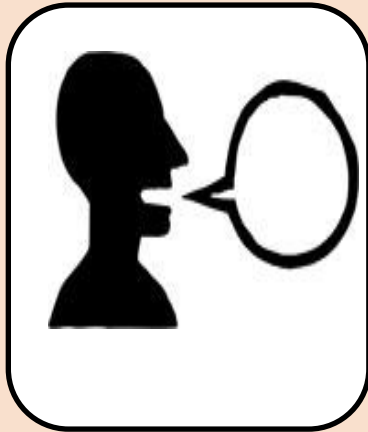


STEP 7: Reading Aloud (音読)は、特定の場面を英語字幕を提示して停止して、英文を見て声を出して読む活動である。DVDの英文字幕を提示して読む場合は、再生と停止を何度も繰り返さなければならないので、スクリプト (<http://www.imsdb.com/>) を入手して、読んだほうがよい。この活動を行う機会として、初めて見るシーンまたは不明語句などを含んだままの場面を見て行う場合と、これまでのステップでの事後活動として、既に不明語句の意味を調べ、台詞の意味を明確に理解した段階で行う場合がある。音読そのものは、洋画に限らず、広く普及した伝統的な学習法であるが、基本として内容をしっかりと理解したテキストを読むのが良いとされている。ゆえに、音読に関しては、他の活動の事後活動として、それもシクログ音読をし、しっかりと発音とイントネーションを確認し練習してから行うべきである。一度も音声を耳をしないまま発音すると、初級レベルでは誤った発音とイントネーションが身について化石化(fossilization)する危険性があるので気を付けるべきである。上の図表にあるように、音読の脳神経メカニズム (cerebral nerve mechanism) は、目で捕らえた文字情報 (visual information) が後頭部の視覚野 (visual cortex) に伝達され、それが優位脳の後部にあるウェルニッケ領域 (Wernicke's area) に伝達され、そこで意味の解釈がなされ、さらに発信するために、前方のブローカ領域 (Broca's area) に伝達され、さらに脳天にある運動野 (motor cortex) に伝達され、そこから指令が舌や声帯 (vocal chords) などの筋肉に伝えられ発話、すなわち音読される。音読を繰り返すことにより、これら一連の情報伝達の経路が活性化 (activation) し、言語習得 (language acquisition)、特に、発音やイントネーションが正確で流暢な発話をし、また、チャンクで音声を聞き取れるようになると考えられている。「只管朗読 (しかんろうどく)」という言葉があるが、世の多くの英語の達人に音読をしてこなかった人がいないぐらい、日本ではポピュラーな英語学習法である。

CLEM STEP 8: Read & Look Up

Read Aloud

字幕を音読する



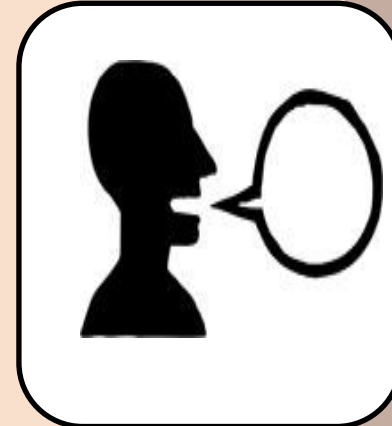
Look Up

字幕から目をそらす



Repeat

反復音読する



STEP 8: Read & Look Upは、特定の場면을英語字幕を提示して一度音読して、停止し、字幕から目をそらして反復音読する活動である。この活動を行う機会として、初めて見るシーンまたは不明語句などを含んだままの場面を見て行う場合と、これまでのステップでの事後活動として、既に不明語句の意味を調べ、台詞の意味を明確に理解した段階で行う場合がある。数秒から数十秒の比較的短い場面であれば、時間とエネルギーが許す限り何度も繰り返し行うようにしたい。反復する長さは、だんだんと長くしていくようにしよう。Read & Look Upは伝統的に日本の学校で行われてきた活動のひとつであるが、近年は廃れてしまっているようである。この活動は、シャドーイングの前段階の練習法として、また、スピーチなどを行う前に暗唱する練習にも使える基本的な活動である。

CLEM STEP 9: Listen & Repeat

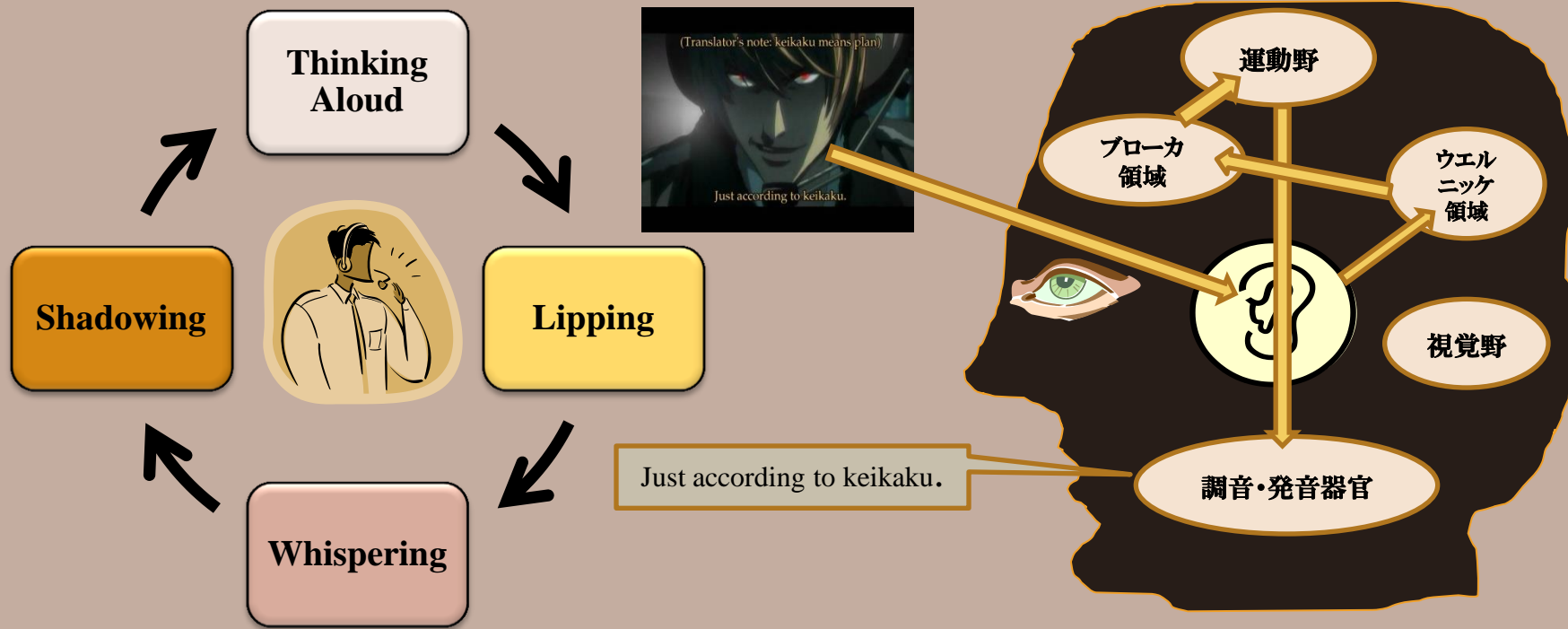
Listen
台詞を聞く

Repeat
声を出して繰り返す



STEP 9: Listen & Repeatとは、字幕を提示せず、音声だけを聞いて、停止し、声を出す基本的な活動である。字幕を見ずに行うため、洋画作品と使う場面の選定には、自分のレベルに合ったものを選ぶことが大切である。この活動を行う機会として、初めて見るシーンまたは不明語句などを含んだままの場面を見て行う場合と、これまでのステップでの事後活動として、既に不明語句の意味を調べ、台詞の意味を明確に理解した段階で行う場合がある。この活動は、シャドーイングの前段階の練習法として行うべき活動でもあるが、難しいと感じたなら、同じ場面、台詞をひとつ前のステップのRead & Look Upで練習を積んでから行うほうがよい。

CLEM STEP 10: Shadowing



STEP 10: Shadowing (シャドーイング)は、一切英文を見ないで、英文が聞こえた直後、またはほぼ同時に小さい声を出す方法で、まとまった単位の長さの語句を聞き取り理解するリスニング力を高めると同時に、まとまった単位の発話をする力を養成する手法である。この活動を行う機会として、初めて見るシーンまたは不明語句などを含んだままの場面を見て行う場合と、これまでのステップでの事後活動として、既に不明語句の意味を調べ、台詞の意味を明確に理解した段階で行う場合がある。シャドーイングは、元来、聞きながら話す作業を強いられる同時通訳者(simultaneous interpreter)の訓練法として行われていたが、1980年代後半から英語教育への応用する試みが盛んになり、いまや日本では音読(Reading Aloud)と並んで英語学習の定番(routine)となっている感がある。スピーカーから流れる音声を聞きながら繰り返すのはなかなか困難であるので、ヘッドホンを使用して、片方を少しずらして耳の半分が外気にさらされる状態で行うのが望ましい。シャドーイングは音源さえあれば、歩きながらも、運転中でも通学通勤電車の中でも行えるが、声を出せない場面では、ささやく程度のWhisperingや、声は一切出せない状況では、唇だけを動かすLipping、さらにマスクをしていたり、水中を泳いでいるような唇も動かさない状況では、心の中で音声を響かせるThinking Aloudを実践するとよい。Thinking Aloud → Lipping → Whispering → Shadowingの順に徐々に慣れていくとよいだろう。

CLEM STEP 11: Role Play

Stage 1 準備

数分の特定の場面を選択して、配役を決めておく。台詞は印刷して各人が持つ。



Stage 2 声出し、収録

英文字幕または印刷した台詞を見ながら配役された台詞を画面を見ながら声に出し演じる。収録してもよい。



Stage 3 事後作業

音声を消し再生して、収録した朗読を同時に流して、合っているかを確認する。



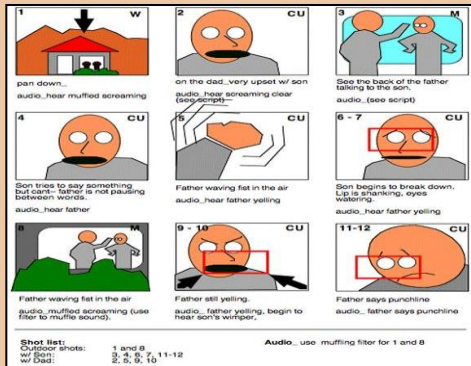
STEP 11: Role Play (ロールプレイ) は、数分程度の洋画の特定場面を選定し、2, 3名で配役を決めて、台詞を読み上げる活動であり、場面の文脈の中で特定の表現や決まり文句、パターン、さらに談話の流れを理解し、将来の実際の使用に対する備えをする活動である。各自が手に持てるように、英文字幕を印刷した紙切を用意しよう。特定の場面を何度も見ながら声合わせをして、感情込めて練習を繰り返す。そして、今度は、画面を停止して、役者になって気分、円形に立って台詞を言う。場面に忠実に実際に演技をしてもよいし、ただ、読み上げるだけでもよい。必要に応じて、再生して言い方や感情の込め方を確認するようにする。これで終わっても構わないが、できればステップ6：シンクロ音読のところで行う活動のように、レコーダーに収録して、音声を消し再生して、収録した朗読を同時に流して、合っているかを確認してみよう。ただし、ロールプレイの目的は、役を演じるのが目的ではなく、あくまでも個人の英語学習者が、将来その場面の遭遇し、想定した談話の流れを体験し、意思疎通を行う際の備えのために行うためであり、画像と一致させることではないので、この事後課題の部分は省略しても構わない。

CLEM STEP 12: Short Film Making

Stage 1

脚本執筆、配役

数分程度の短編映画作品の脚本を協同で完成させる。



Stage 2

演技、撮影、編集

台詞の読み合わせ、暗記、練習を繰り返し、演技し、撮影収録する。



Stage 3

上映、鑑賞、批評

動画制作のソフトを用いて、編集作業を行い、作品として仕上げる。出演者全員で鑑賞し、ディスカッションする。



STEP 12: Short Film Making (短編映画の制作)とは、数分程度の短編映画作品を丸ごと制作する活動である。脚本の執筆から、配役、演技、演出、撮影、収録、編集、上映、鑑賞、批評など通日から数か月かけて行う。自律的英語協同学習として、数名の仲間やサークルを形成し、年に1, 2本制作するとよい。だんだん慣れてきたら短編から長編まで制作することもできる。また、映画作品に固執せず、テレビコマーシャルや何かの広報などの動画を作ってもよい。さらに、You-Tubeなどで公開すれば、世界各国から英語でのコメントが寄せられ、学習意欲はさらに高まるだろう。短編映画の制作のプロセスの中に、英語の4技能と語彙・文法の2分野のすべての上達に繋がる要素含んだ、自律的英語学習法の総仕上げと呼ぶべき活動である。



口語英文法

CEG: Colloquial English Grammar

<http://www.ne.jp/asahi/toshi/koba/CEG.html>



図解50の法則 口語英文法入門

Introduction to
Colloquial English Grammar

Revised Edition

*lexicogrammatical and discourse features peculiar to casual conversation and writing,
i.e. messages transmitted through either spoken or written medium in spoken mode*

洋楽の歌詞と洋画・TVドラマの台詞を例示
すべての英語教師・英語学習者必読

REDUCTION 縮小
(I) Wonder who gave it to you.

EXPANSION 拡張
Don't you say your goodbyes.

VARIATION 変換
Doors ain't as bad as you think.



小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻
(専門職大学院ビジネススクール: OBS)教授

小林敏彦 著



The CEG Typology Framework

-- A Way to Give Shape to Colloquial English --

Reduction 縮小 ● → ● W C		Expansion 拡張 ● → ●● W C		Variation 変換 ● → ★ W C	
Ellipsis 省略	Contraction 短縮	Attachment 付加	Paraphrasing 言換	Substitution 代用	Reordering 倒置
1. 挨拶 p.34	14. 略語 p.72	19. 人称代名詞 p.88	26. 反復 p.116	30. 口語語彙 p.138	44. 話題化 p.170
2. 定型表現 p.36	15. 愛称 p.74	20. 注意喚起語句 p.90	27. 余剰要素 p.120	31. <i>gen</i> の多用 p.142	45. 後置 p.172
3. 返答での省略 p.40	16. 略式綴り p.76	21. 反応語句 p.100	28. 節の多用 p.124	32. <i>give/get</i> 動詞句 p.144	46. 左方転位 p.174
4. 主部の省略 p.44	17. 動詞句短縮 p.78	22. 談話標識 p.104	29. 意思伝達方略 p.128	33. 非公式表現 p.146	47. 右方転位 p.176
5. 命令文のBeの省略 p.46	18. 一体同化 p.80	23. 付加詞 p.106		34. 単語 p.148	48. 後置疑問詞文 p.178
6. 接続詞 <i>if</i> の省略 p.48		24. ' <i>ve got to</i> p.110		35. 知覚動詞進行形 p.150	49. 平叙疑問文 p.180
7. 文中 <i>be</i> 動詞の省略 p.52		25. 群動詞化 p.112		36. 過去形で完了 p.152	50. 並列結合 p.182
8. 接続詞 <i>that</i> の省略 p.54				37. 仮定法の <i>was</i> p.154	
9. 不定詞の省略 p.56				38. <i>who</i> で代用 p.156	
10. 接尾辞 <i>-ly</i> の省略 p.58				39. 人称代名詞中性化 p.158	
11. 前置詞の省略 p.62				40. <i>less</i> で代用 p.160	
12. <i>have/had</i> p.66				41. <i>like</i> で代用 p.162	
13. 文尾での省略 p.68				42. <i>more</i> + 短い形容詞 p.164	
				43. 二重否定 p.166	